

ラウンドB	日本語	ブルー社用審査票	対戦番号	レッド社	ブルー社
-------	-----	----------	------	------	------

ラウンド	(A)	(B)
日/英	(B)	(E)

ブルー社	(B)
レッド社	(RED)

審査員	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)
-----	--

大学	チーム

大学	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)	(J)
チーム	(1)	(2)	(3)	(4)						

審査員氏名 ()

対戦番号	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15)
------	---

No.	項目	審査のポイント	3が標準です ↓	得点
1	事前メモ ・社長との 打合せ	事前メモは分かりやすく、過不足ないものであるか。 社長への報告は分かりやすく適切であったか。 社長から得ておくべき承諾、決裁は適切に得ることができたか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
2	目的・戦略	交渉の目的は適切に設定・理解されていたか。 目的に照らし、戦略は適切であったか。 ワイン・ワイン・ソリューションを目指していたか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
3	効果的な 議論	目的・戦略に照らし、議論は効果的であったか。 合理的な提案を柔軟・適切に行っていたか。 交渉方針は機能しているか。相手に柔軟に対応できているか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
4	相手との 関係	相手方の考え方・利益を理解するため、効果的な問い合わせを行って いたか。相互に不信・不満は生じていなかったか。 相手とより良いワーキング・リレーションを構築しようとしているか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
5	交渉結果	交渉目的からみて、自己利益の最大化を達成したか。 交渉の結果はワイン・ワイン・ソリューションとなっているか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
6	合意の文書化	合意内容は、過不足なく正確に文書に表現できているか。 文書作成のプロセスは適切であったか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
7	発言 説明 態度	明瞭で自信をもった発言をしていたか。自社の考えを分かり易く 説明できていたか。意図せず感情的になることはなかったか。 言葉遣い、マナーはビジネスマンとして相応しいものであったか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
8	報告 ・ 自己評価	交渉の結果について明確かつ十分な報告ができたか。 審査員・社長からの質問には適切に対応したか。 客観的に自己の交渉を振り返り、良い点、悪い点を評価できていたか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
9	チーム ワーク・ 役割分担	チーム全員が自己の役職に応じた役割を果たしたか。 役割の分担は合理的なものであったか。 特定の個人が突出したり貢献しない人がいたりしなかったか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	
10	交渉権限 ・倫理	権限、B A T N A を逸脱した交渉は行わなかったか。 倫理に違反するようなことはなかったか。	1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 (1) (1.5) (2) (2.5) (3) (3.5) (4) (4.5) (5) 不可 可 良 優 特優	

良い例	(●)
悪い例	(○) (◐) (■)

<審査にあたっての留意事項>

- ①評価は絶対評価とします。
- ②得点欄に得点を記入するとともに、マークしてください。0.5点単位で中間値を用いても結構です。
- ③評価にあたっては、チームの構成（学部生主体か大学院生主体か、法曹実務・企業法務経験を有しているか）も踏まえ、チームのパフォーマンスが審査員の通常期待するレベルであれば3、それ以上のレベルには4、極めて優れたレベルであった場合には5、やや物足りない場合には2、非常に物足りない場合には1を付けてください。
- ④「3良」が普通の出来、いわば審査のホームポジション（基準ライン）です。チームに社会人経験、法曹実務家経験等のある学生がいる場合には、通常期待するレベルを高くしてください。
- ⑤審査は個々の審査員が独立して行いますが、正確と公平を期すために、審査票を提出される前に、得点についての意見交換を行って下さい。